

牛白血病の浸潤状況と  
清浄化に向けた課題

○竹谷 祐彰

牛白血病（BL）は家畜伝染病の届出伝染病であり、と畜場法の別表7に示された全部廃棄の対象疾病である。平成21年11月現在間管内においても2件の発生がある。

H21年県外導入を行っている酪農家5戸で飼養する乳用牛293頭を対象に牛白血病（BL）抗体検査を実施し、抗体陽性率3.9%～29.4%、合計53頭（18.1%）の陽性を確認。（表1）

農場毎BL抗体陽性率

農場	検査頭数(頭)	陽性数(頭)	陽性率(%)
A	51	2	3.9
B	51	8	15.7
C	72	12	16.7
D	68	16	23.5
E	51	15	29.4
合計	293	53	18.1

管内に広いBLの浸潤が思料され、県外からの導入牛等の抗体検査成績（H21年～H23年）を分析。導入牛は205頭中21頭（10.2%）に陽性、県外への預託時に抗体陰性であった102頭については約8カ月間の預託後9頭（8.8%）に陽性が確認された。（表2）このことを踏まえ今後の清浄化対策に資するため、酪農家（50戸）に

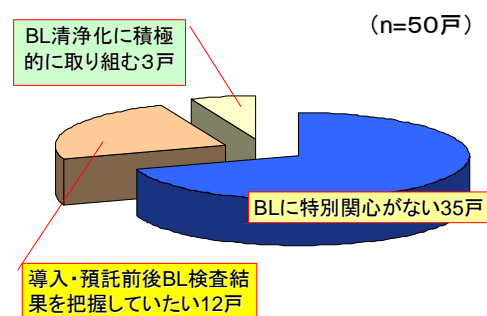
意識調査を行った。

平成21年度～平成23年度BL依頼検査  
県外導入・預託後育成牛(307頭)

年度	H21	H22	H23 (11月)	合計
導入牛(頭数)	27	104	74	205
陽性数(頭数)	3	9	9	21
陽性率(%)	11.1	8.7	12.2	10.2
預託牛(頭数)	29	25	48	102
陽性数(頭数)	2	2	5	9
陽性率(%)	6.9	8.0	10.4	8.8

その結果、①BL清浄化に積極的に取り組みたい②導入、預託前後のBL検査結果等状況を承知していたい③BLに特別関心が無い、の3つのループに分類された。（表3）

BLに対する考え方



さらに団体職員、獣医師、関係機関にBLに対する考え方、農家へのBL対策についての指導状況等聞き取り調査を実施した。以上のことから、今後の清浄化対策の指導方策としては農家へのBL対策の啓発をさらに図りつつ、農家の実情に照らして取り組む必要性が認められた。